

品質保証 – 燃料有効長頂部位置データの不整合の概要及び対策 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.209、210、211、212、214

東海第二発電所では、過去に、国の審査資料などに記載された原子炉内の燃料の位置データが実際と異なっていたという不備があったが、施設の安全に影響はあったのか。また、どのような再発防止策を講じているのか。

第26回ワーキング
(2024.2.14) で議論

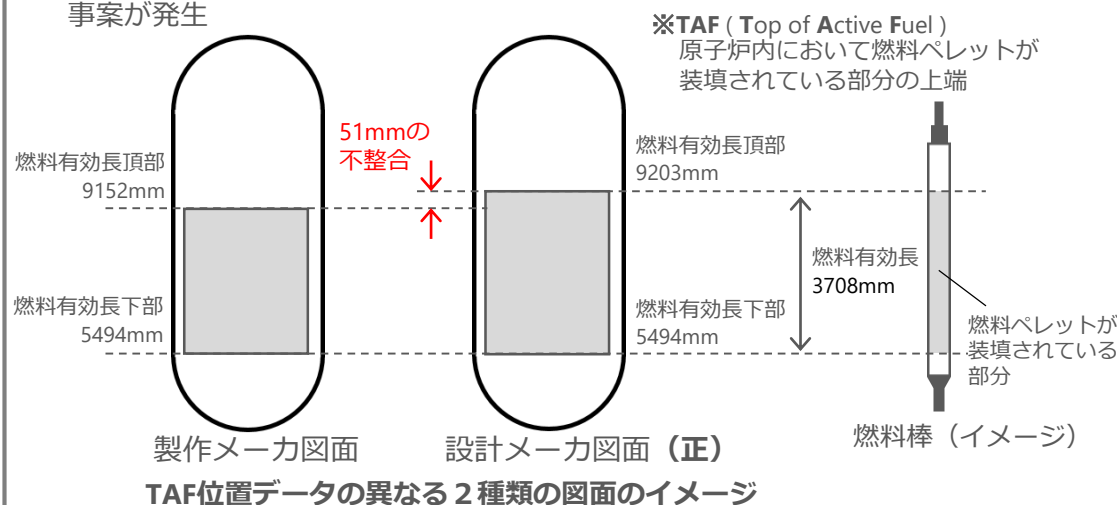
ワーキングチーム検証結果

正しい数値を用いて評価しなおした結果、**安全性への影響はわずかであったこと、再発防止策として、申請書などの作成にあたって根拠となるデータを引用する際のチェック体制を強化するなどの対策を行うことを確認。**

ワーキングチーム検証結果（抜粋）

○燃料有効長頂部（TAF）位置データの不整合

- 東海第二発電所では、原子炉圧力容器の燃料有効長頂部（TAF）※の位置データについて、数値が異なる2種類の図面が存在していた。
- このため、実際とは異なる数値を基に国の審査資料等を作成してしまうという事案が発生



○安全性への影響

- 実際と異なるTAF位置データが記載されていた図面や、その図面を基に作成していた図書（非常時運転手順書など）は、正しい数値に修正。
- 誤った数値を基に作成した審査資料については、**正しい数値を用いた再評価や追加の点検を実施**し、結果を反映。
- 原子炉水位計の校正に用いるTAF位置の数値に実際と異なる数値が使用されており、原子炉内の燃料域の水位が実際よりも約5cm高めに計測されることとなっていたが、燃料域の計測幅5mに対し約1%にとどまるため、**影響程度はわずか**であると評価。

○原因と再発防止策

- 圧力容器の図面は、製作メーカが当初作成した製造図面と、設計段階における寸法変更が反映された設計メーカ図面の2種類が存在。事業者は、後者の図面をより正確な図書（第1種図面）として管理。
- 実際とは異なる数値を基に審査資料等を作成したのは、この変更が反映されていない製造図面に記載された数値を参照してしまったことが原因。
- 再発防止策として、**業務計画等の根拠や妥当性などのチェック体制を強化するとともに、資料作成の際は第1種図面を優先的に使用し、その他から引用する場合は複数図書によるチェック、メーカへの再確認等を実施することをルール化。**